

●NTTコムウェア●

「ITで安全を補う」をコンセプトに、 安全な通学路モデルの確立を目指す

組織をまたがる タスクフォースを結成

子どもを巡る不幸な事件の多発を受け、政府・自治体・NPOなどが犯罪から子どもを守るための各種施策を展開している。

NTTコムウェアでは、2005年よりITを活用した「安全な通学路モデル」の確立に向けた取組みを開始。研究開発部において、

- ・アクティブタグを利用した出入り検知
- ・GPSによる位置検索
- ・地図による位置表示

といった要素技術を研究開発するとともに、IT営業本部（当時）では「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」の活動に参画。2006年4月の組織変更を契機に、CRM&ビルディング・ソリューション事業本部（営業企画部）、エンタープライズ・ソリューション事業本部（RFID推進室）が中心となってタスクフォースを結成し、システム開発を行うネットワーク・ソリューション事業本部を交え、研究開発した要素技術を組み合わせて「安心安全ソリューション」の実現に向けた検討を開始した。9月には要素技術の技術的有効

性を検証するため、都内にて実証実験の実施が決定し、2007年5月より開始することとなっている。

ソリューションの コンセプトは、 「ITで安全を補う」

NTTコムウェアの安心安全ソリューションの基本的なコンセプトは、「人間の力」にある。

「子どもを危険から守ることができるのはITではなく、子ども自身、地域の人々、保護者、教師など、人間の力・つながりだと思います。ITはあくまで付加的要素であり、ITによって、子どもが本来備えている危険回避能力を決して退化させてはいけません。したがって私どもは、“ITで安全を補う”という考えに立脚した安心安全ソリューションの実現に向けて取り組んでいます。」（沢田和則担当課長）

NTTコムウェアでは、研究開発部が研究開発した技術要素について、人間の力とITをどのように融合させるかを含め、実証実験を通してその技術的な有効性を検証し、



NTTコムウェア(株)
（左）CRM&ビルディング・ソリューション事業本部
担当課長 沢田 和則氏
（中）エンタープライズ・ソリューション事業本部
RFID推進室 酒井 真紀子氏
（右）研究開発部
スペシャリスト 古川 嘉識氏

「ITと地域コミュニティとの連携による、安全な通学路モデル」を確立することを目的としている。

子ども安心安全実証実験の概要

5月から開始する実証実験のポイントについて、RFID推進室の酒井真紀子氏は次のように述べている。

「全校児童の中で希望者全員にアクティブタグを配布し、児童はランドセル等にアクティブタグを付け登下校を行います。校門付近と下駄箱に設置されたリーダーアンテナがタグを検知し、予め登録された保護者のメールアドレスへ登下校情報を送信する“登下校通知機能”について

検証します。オプションとして、GPS 端末を使って下校中の子どもの位置を定期的に検索する機能も検証します。また、保護者や地域住民のご要望に応じて、“登下校通知”を学童クラブ※に通知することにより、子どもを中心とした学校・保護者・地域を結ぶ仕組みを作り、地域での見守りに役立てるツールとなり得るかの検証も行います。」

実証実験で検証する機能・特長について、研究開発部の古川嘉識氏は、「登下校通知機能、下校中の位置通知機能、現在位置検索機能、登下校及び位置履歴参照機能の4つの機能からなっています。主な特長としては、アクティブタグを使用するので、児童が意識してタグをリーダーに読み取らせる必要がないということと、他にはない機能として、アクティブタグで児童の下校を検知するとGPSによる位置検索を開始するので、保護者が意識してGPSによる位置検索を実施する必要がないという点が挙げられます。」と述べている。

以下に主要機能の概要を示す。

<登下校通知機能>

- ・児童が所持するアクティブタグを学校に設置したリーダーで検知し、登下校を判断。
- ・保護者の携帯電話（マルチキャリア）またはパソコンへメールで児童の登下校を通知。
- ・メールの内容には、校門を通過した日時、児童氏名、登下校の区分を含む。

<下校中の位置通知機能>

- ・児童の下校をトリガーにして、ビジネスmopera GPSロケーションを起動し、GPS 端末を所持している児童の位置を定期的に検索。
- ・検索間隔および検索回数は、各児童の下校に要する時間を考慮し、個別に設定。
- ・送信するメールには、最新検索時点の児童の所在地を表示した地図を参照するためのURLを表示し、メール中のURLをクリックするとブラウザに地図が表示される。

<現在位置検索機能・位置履歴参照機能>

- ・保護者が随時、GPS 端末を所持している児童の位置を検索。
- ・検索した時点の児童の現在位置を地図で表示するとともに、過去の検索結果の履歴も参照可能。

「安全な通学路モデル」の全国展開に注力

5月からの実証実験はフェーズ1で、その結果を踏まえて本年秋頃からフェーズ2の実証実験が行われる。フェーズ2の実証実験の内容は、決定していないが、おそらく地域コミュニティとの連携が中心になると思われる。

前出の沢田和則担当課長は、「子どもの安心安全に対し、教育現場に従事される方々の関心は非常に強いものがあります。」としたうえで、「NTTコムウェアとして、今回の実証実験での検証結果を踏まえて、子どもの安全を補う、“安全な通学路モデル”を確立し、将来的には全国の自治体・教育委員会などに対して、積極的な提案活動を実施していきたいと考えています。」と、今後の展開について述べている。

※保護者の就労等の事情で、放課後に保護を受けられない児童の日常生活と健全育成の場として公共施設等に設けられている。

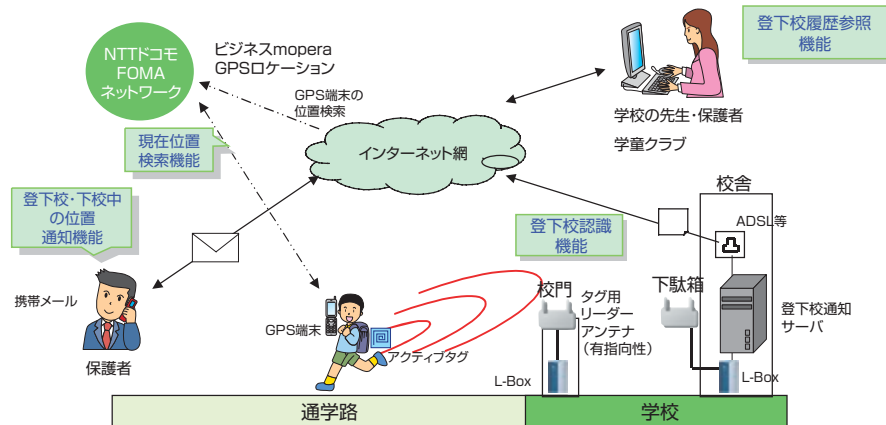


図1 子ども安心安全実証実験の概要

お問い合わせ先

NTTコムウェア(株)
CRM&ビルギング・ソリューション事業本部
営業企画部
TEL : 03-6713-3708
URL : <http://www.nttcom.co.jp/>